

第2回かわさきコンパクト委員会 議事録

日 時：2016年11月8日（火）10時00分～11時30分

場 所：川崎市産業振興会館 10階 第2会議室

出席者：〔委員〕小倉、庄司、鈴木、瀧田

〔川崎市〕地球環境推進室 齋藤、井田、内田、加賀谷

〔事務局〕株式会社ダイナックス都市環境研究所 北本、谷口

1 開会の挨拶

- （市）11月4日にパリ協定が発効され、地球温暖化対策は新しい段階を迎えた。脱炭素社会を実現するためには大きな社会変革が求められており、「グローバル・コンパクト」や「かわさきコンパクト（以下、「KC」とする）」のような考え方を実現しないと、脱炭素につながらない。交流会、セミナーなどの機会を通して、KCの取組の浸透をはかっている。様々な施策を展開しながら、市民、企業にKCを広めることを目指し、引き続き多様な意見、助力を賜りたい。
- （委員長）先日のセミナーで素敵な話が聞けた。パリ協定が発効され、川崎市長のいう、持続可能で「最幸のまち川崎」を目指したい。KCはすばらしい取組なので、今後の広がりを考えながら第2回委員会を行いたい。

2 議題

(1) 事業報告について

事務局株式会社ダイナックス都市環境研究所（以下、「事務局」とする。）より、資料1-1、1-2、1-3をもとに今年度実施したKCの事業についての報告が行われた。委員からは以下の意見があった。

- （委員長）川崎市内のエコアクション21参加事業者への個別アプローチは何団体程度行ったのか。
- （事務局）おおよそ20事業者程度へのアプローチを行なった。事業者からのレスポンスはあったが、イベントなどへの直接の参加には繋がらなかった。セミナーに参加した団体で関心を持っていそうな団体に関しては、申込の案内などを個別に行っている。
- （委員長）新しく作成する冊子に、KCへの参加申込用紙を封入してはどうか。用紙を入れていけばすぐに申込みへとつなげることができるのではないか。
- （市）KCのような取組は、先方からいきなり申込みが来ることをあまり期待できないため、大勢に対して参加の呼びかけを行うことと平行して、個別のアプローチを行うことが重要である。セミナーに参加した人などはKCの活動内容をすでに垣間見てもらっているので、有力な候補となる。
- （委員）冊子は一部あたりの単価が高いので、KCへの申込欄を含む1枚のリーフ

レットを作成し、たくさん配れるようにしてはどうか。環境イベントだけでなく、多様な場面で配布をすることができる。

- (市) 昨年簡易版の案内をつくったが、まずは参加への意思表示書や資料請求のような、ファーストコンタクトを取れる仕掛けがあればいい。
- (委員長) 資料請求であれば、申込よりは気軽にコンタクトを取りやすくなり、そこから参加を促せる。
- (市) 10月のセミナーの案内を、商工会議所のルートで送付した結果、KC 参加団体以外からも参加申込があった。今回このようなルートでのアプローチができたので、今後も周知方法などで工夫をしながら参加の輪を広めたい。
- (委員) 10月のセミナーに参加したのは、どのような事業者か。ビジネスコンパクトの参加企業ではないのか。
- (市) 商工会議所を通じて参加してきた、KC の会員ではない事業者が 3 社あった。このような事業者はアットワークも軽く、様々なところに顔を出していると思われるので、今後の活動にも参加してもらえるかもしれない。意欲的な川崎市内の企業にリーフレットを配る機会を設け、それを見て関心を持ってもらいたい。

(2) 子どもへのアプローチ 結果報告 (資料 2)

市より、資料 2 をもとに、子どもへのアプローチに向けた取組 (食とくらしがつくる地球の未来 みんなでいっしょに考えよう) について報告された。委員からは以下の意見があった。

- (委員) 参加者の市内の分布はどのようなものか。
- (市) 参加者は各区に分かれており、小学校もばらばらである。最後にプログラムの成果発表を小学生たちにしてもらい、将来への自分への約束のような形で、どのようなところでどのような暮らし方、働き方をしているかについて絵をかいてもらい発表してもらった。未来に向けた思いを馳せてもらったことが KC のアプローチと通じるところがあり、KC にもフィードバックができるよい取組だったと思う。
- (委員) 来年このプログラムは続けるのか。
- (市) 今後もこのプログラムは続けたい。参加した親子からも「これからも続けてほしい」という内容のコメントもいただいた。
- (委員長) 当日プログラムに参加した感想として、保護者も一緒に参加したことで、家庭への内容を持ち帰りできることは大きな成果だった。参加者は 20 組 40 名程度であったが、それ以上人数を増やすと内容がうすくなってしまうため、その程度が参加人数の上限ではないだろうか。すばらしい取組なので、KC も子どもを意識した事業展開を行えばよい。また、今回のプログラムの成果を上手に PR する方法はないだろうか。
- (委員) 4 日間のプログラムで、KC についての説明はできたか。
- (市) サステナブルということに関しては、4 日間通して説明していた。人権や労

働という難しい言葉は同じ意味の違う言葉で説明しており、メッセージ性はあった。

- (委員) 全てのプログラムを一度にやるともったいない。
- (市) 自治体だけでできるものでなく、事業者が入ることで厚みが出る取組である。行政だけで考えられるアプローチではないので、市民団体や事業者と連携して、それぞれの長所をどう組み合わせるかが重要と考えている。
- (委員長) 将来的にこのプロジェクトを発展させるためには、KC 参加事業者、団体と様々なテーマでタイアップを行えば、多様な切り口が生まれる。

(3) かわさきコンパクト冊子について

市より、資料 3 をもとに、今年度の KC 冊子について報告された。委員からは以下の意見があった。

- (委員) 最後のページの「1 年間の活動」の部分に、各種イベントの内容を記載してはどうか。それに参加者の感想などを吹き出しで記載したり、表紙にイラストや子どもの写真を入れたりするなど、固い内容の冊子に少し柔らかくするとよい。子どもから大人までが繋がれるようなイメージのデザインになれば手に取りやすい。また、KC を知ってほしいということがわかるような表紙、中身がよい。中身の内容をしっかりとしつつ、デザインやレイアウトで工夫してほしい。
- (市) セミナーや子ども達との関わりなど多方面で行っているので、将来や未来に向かった活動をしていることがわかるような作り方にしたい。冊子作成まではどのようなスケジュールになっているか。
- (事務局) 第 2 回交流会に、完成した冊子を配布できるようにする。
- (委員長) ごえん楽市の参加団体など、対象となるような団体に配布をしたい。冊子の内容について、興味をもってもらえるように字体をやわらかくしたり、目立たせたい部分は大きくしたりするなど、メリハリがほしい。KC が目指すものが伝わるような内容となればよい。
- (委員) 下半分で、子どものプログラムの簡単な内容や事業者の意見、参加者の感想や子ども達の発表の内容などを紹介して、「企業と一緒につながっていく」という内容のほうが、メッセージ性が増す。
- (事務局) 配布資料の団体紹介のページ内で、空いているスペースを用いてコラムを掲載している。今の御意見も踏まえ、空きのスペースを使ってどのような情報を載せるかは検討したい。
- (委員) ごえん楽市でのパネル出展など、KC が様々なイベントに参加している雰囲気はどう見せるか。KC のロゴマークを出展団体に貼っている場面を紹介し、アピールの方法なども紹介することができればよい。
- (委員) 最後のページを切り取れるようにし、順番に読んで関心を持った団体が最後に資料請求のページにそのような案内があれば、応募につながるのではないか。
- (委員) KC は市民コンパクトも一緒になっていることが特徴なので、産業、市民

と一緒にまちづくりをしていることを、PRしてほしい。

(4) 今年度中の事業予定について

市より、資料 4 をもとに、今年度の KC の主な取組予定について報告された。委員からは以下の意見があった。

- (委員) 11 月の地域・社会貢献フォーラムに記載している 8 つの団体のうち、KC に加入していない 6 つの団体も同じような思いを持つ仲間であると思う。
- (委員) 6 つの団体については、活動内容によっては KC への参加や協力をしてくれる団体もいると思われる。
- (委員長) 11 月 30 日の地域・社会貢献フォーラムでは是非市民団体への周知をおこなってほしい。
- (市) 市民活動推進課が主催のイベントなので、このような機会を利用して、市民活動推進課が持っているネットワークや、仲間になってもらえそうな団体のネットワークを活用するなどの連携ができればよい。
- (委員) KC 委員も参加することができるか。
- (市) 恐らく可能である。
- (委員) KC 委員会が共催ならば、パネルなどの展示を行ってほしい。

(5) かわさきコンパクトの今後の展開について

市より資料 5-1、資料 5-2 をもとに、KC の今後の展開について報告された。その中で、交流会を実施後、第 3 回委員会を実施することが報告された。委員からは以下の意見があった。

- (委員) 交流会、および第 3 回委員会はいつ頃実施する予定か。
- (市) 1 月下旬から 2 月上旬にかけて実施する予定である。2 時間から 3 時間程度の長丁場となる予定である。
- (委員長) 交流会の時間は 1 時間半程度か。第 1 回交流会ではワークショップの時間が短かったため、1 時間くらいほしい。交流会では、私たちが問題に対してどのようにアプローチできるか、それにむけたキーワードを出すなどの前向きな意見がでるような仕組みにしてほしい。
- (市) 本日も様々なアイデアいただき、まだまだやるべきことはあると思っている。その中で、こういう活動をするのにふさわしい原則があるなどの話があれば、昨年度からの原則宣言の改新についての議論に踏み込むが、まずは意見を踏まえて、何ができるかを前向きに打ち出せばありがたい。

3 事務連絡

次回については、別途メールで調整することとなった。

4 閉会